

IT 活用実践事例

小学校
6年
国語

自分の意見を伝えるスピーチをしよう

～ 伝え合おう 私の意見 ～

実践者：富谷町立成田東小学校 佐藤 靖泰

1 学習の概要

キーワード

スピーチ発表会

発表する話題の共有

話す・聞く

実物提示装置

IT 活用のポイント

- 児童が自ら選択した新聞記事の切り抜きを、聞き手全員が共有できるように拡大提示するために実物提示装置を使用した。

単元名

伝え合おう 私の意見

単元の目標

自分の考えや意図が伝わる工夫をして話したり、話し手の意図を考えながら聞いたりする。

本時の学習

スピーチ発表会をしよう。

本時の目標

事実と感想・意見を区別し、資料の提示の仕方を考えて話したり、話し手の意図をとらえながら聞いたりすることができる。

本時の活用コンテンツ

- 児童が自ら選んだ新聞記事の切り抜き
- 前時までに作成したスピーチ用のメモ



単元計画（5時間扱い）

- 教材文を読んで単元の課題をつかみ、新聞記事を使った話題の集め方を知る。（1）
- 新聞記事の中からスピーチで伝えたい話題の一つを選び、取り上げる内容を整理してスピーチメモを作る。（1）
- スピーチに必要な資料を用意したり、メモをもとに話す練習をしたりする。（1）
- スピーチ発表会を開いて感想を伝え合い、学習の成果を確かめる。（2）〈本時〉

（括弧内数字は扱い時数）

本時の学習（90分）

学習活動	指導上の留意点
1 本時の学習内容について知る。	前時までに作成・修正したスピーチメモを元に発表することを確認する。 声のボリュームやスピーチのスピードだけでなく、記事の内容のわかりやすさや意見や感想の内容などスピーチの構成について相互評価することを知らせる。
2 出席番号順に、新聞記事の切り抜きを提示しながらメモを元にスピーチする。（話し手） 友達のスピーチを聞き相互評価する。（聞き手）	実物投影機に新聞記事の切り抜きを乗せ、拡大表示されてから話し出すようにさせる。 始めに、提示された記事に簡単に目を通す時間を取り、スピーチを聴き終えてから評価を記述するように声がけする。
3 自分のスピーチを振り返り、自己評価する。	最後に自分のスピーチを自己評価し、誰のどんな良い点を取り入れたいか具体的に記述させる。

2 実践のポイント！

気軽に手軽なIT機器活用

本時で使用したIT機器はPC、プロジェクターの他には実物投影機だけである。その実物投影機も、児童が自ら選んだ新聞記事の切り抜きを拡大提示することのみに使用している。

本時で使用した実物投影機は、カメラ機能があり、台の上に置いた新聞記事を自動的に撮影して拡大提示する機能を持つ。また、その新聞記事を台から取り除くと即座にカメラ機能に戻るため、次の児童の発表準備のために教師が機器操作に煩わされることがない。よって発表時間中は各児童への個別指導が可能であり、かつ、テンポの良い授業展開ができるので、得意不得意にかかわらず、児童の集中を阻害せずに進めることができる。



拡大するだけで顔と集中度が上がる

本時で使用した新聞記事の切り抜きなど、そのまま全員の前で見せても小さすぎてよく分からないものを提示する時、従来は事前に時間をかけて印刷し、配布する形態を取っていた。その場合、聞き手の児童は発表中ずっと顔を下げていることになり、話し手の表情や振る舞いを見ることができない。また、発表、評価、発表がクラスの人数の回数だけ繰り返されるので、手元を見続けていると関心や集中力が極端に低下する。しかし実物投影機を使用することにより、手元にプリントがなくても全員で共有できる。また、児童は自然と顔を上げて発表を聞くので、関心や集中力を持続することができる。評価時にも、今まで集中して見聞きしていたことをノートに表現するので、発表に即した評価活動になる。



3 子どもたちは？

子どもの姿

- 記事を選択し切り抜く時点から、発表時には記事を見せながら発表することを伝えていたので、記事の内容だけでなく聞き手に提示するときに見やすいレイアウトの記事を選ぶなど、新聞の構成にも関心を持った児童がいた。
- 90分間の授業であったが、その中で全員が自分以外の発表者の評価を行うことができ、その内容も記事に即したものがほとんどだった。

子どもの声

- さんの発表は、声も大きかったし記事の内容も分かりやすかったです。最後に自分の考えをまとめて発表していたのがよかったです。
- 君の発表は少し難しかったけれど、記事を見ながら聞いたのでよく分かりました。
- 記事を選ぶとき、大きな写真があるものを選びました。写真を見せながら発表したので安心でした。

